

カガヤキ

暫定的補足表題「ウオラントス」
ラテン語でボランティアの意



県立図書館普及課長 鈴木忠雄

No.65(2022.5.20刊行)、広報委員会編集
茨城県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

ご挨拶

普及課長 鈴木忠雄

皆様はじめまして。4月より茨城県立図書館普及課に着任しました鈴木忠雄と申します。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

と言ったところで、まだお目にかかれな
い皆様に、少しでも自己紹介をさせていただきます。

私は1970年生まれ、桜川市(旧岩瀬町)出身です。実家は写真屋で(他界した父は「写真館」という名前にこだわっていた)将来は家業を継ごうとずっと思っていました。

ところが中学校の時、素晴らしい先生に出会い、教職の道を目指すことにしました。その先生は、ただただ優しく、笑顔を絶やさない先生でした。嫌いな数学を好きにさせてくれた先生で(あたかも自分できたかのように勘違いさせてくれたのかもし

れませんが)、豊かな人間性や、教師としての力量と技術に憧れ、いつか自分もあんな先生になってみたいと思うようになりました。結果、大学を卒業し、平成4年に公立学校教諭となり、現在に至ります。

図書館への人事異動に関しては、教員籍のイレギュラーな配置かもしれません。赴任して約1ヶ月が過ぎようとしている現在、仕事内容が理解できず、自己有用感や自己肯定感を失いかけたこともありましたが、仲間の支えもあり、少しずつですが図書館の業務に慣れてきたところです。生涯学習の場としての図書館が、利用される方にとって有意義な場であるよう、普及課としてできることを考えていきたいと思います。

教員時代の「子どものために」を「県民のみなさまのために」と置き換えて、仕事に邁進したいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

さて、この伝統あるボランティア通信「カガヤキ」への寄稿には少々ためらいはしたものの、普及課長という立場上、なんとかせねばと自分を奮い立たせながら、つたない文章を書いております。「分かってないなあ」と思われる部分もあるかと思いますが、どうぞご了承ください。

ボランティアの活動についてですが、日本では「奉仕活動」といった和訳をされた歴史があるようで、広まる際には「良い行い」をすることがボランティア活動の意味になったと聞いたことがあります。しかし、本来の意味は、17世紀中頃に、イギリスで地域や家族を守る自警団や志願兵の活動を指したそうです。つまり、自分の「意思」で活動するといった意味合いになるかと思われます。過去の学校での勤務でも「ボランティア活動をしよう」と指導する場面が多々ありましたが、根本的に活動を促すことは、本来の意味をなさないことがよく分かりました。

ボランティア活動は「自発的」に行われることに意味があり、「良いことだからやりましょう」は、ボランティア活動ではないのでしょうか。学校教育活動においては、様々な体験をさせることが大切です。その中で自分が突き詰めたいもの、なりたいものを見つけ、成長していく一助を担っているのが学校です。そういった意味では、「活動をしよう」も決して無意味ではないと思います。そういった体験をしたからこそ、「自分もやってみよう」につながっていくのが教育だと思っています。

私が大好きなテレビドラマがあります。倉本聰原作の「北の国から」シリーズです。2002年に放送されたシリーズの最終話である「北の国から 2002 遺言」の中で用いられた言葉が、今でもとても印象に残っています。それは、新婚の新居を廃材を用いて作る場面がありました。近所の方々や知り合いが、建築現場にどんどんやってきて手伝いをするのです。もちろん日当も何も出ません。それを見ている客人が驚い

ていると、黒板五郎（田中邦衛）が「このあたりでは、手間返しと言ってお互いに人手を出し合って助ける。労働には労働で返し、お金やもので返してはいけない。」といった説明をするシーンがあります。手間返しを「結い」とも呼ぶとも説明していません。

調べてみると「結い」とは、主に小さな集落における共同作業の制度だそうで、労力が必要な作業を、集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の精神を指すそうです。小さな島国で小さな集団が寄り添って生きてきた日本にとって、助け合うことは当たり前であり、生きる術だったのではないかとしみじみ思います。互いに思いやり、見返りを求めない行動が、ここ日本には古くからすでに根付いていたのかもしれない。

時としてボランティア活動はパフォーマンスとして捉えられることがあります。入試等において、調査書に「ボランティア活動の有無」を求められることもあります。評価のため、加点のために行うボランティアには疑問が残ります。一番大切な「自発的」がない活動には、得るものがないと思います。

ここ、茨城県立図書館に、自らの意思で参集されたボランティアの方々は、いつもにこやかに、そして、さわやかに活動されています。緑のエプロンは新緑の季節に重なり、より素敵に目に映りました。聞けば100名にも届く方々が、対面朗読や配架、本の修理などに熱心に取り組んでおられるとのこと。貴重なお時間をいただき、ご奉仕される皆様は、県立図書館を支えるチームの一員です。時間を有効に使いなが

ら誰かを幸せにしたい、誰かのためになることをしたい、人のつながりを大切にしたい、自分を高めたい……。真のボランティア精神を持ち合わせた皆様に集まっていた本館は、本当に幸せです。「結い」という言葉を借りれば、皆様の活動は、人と人を「結ぶ」大切な役割を担っているのかと思います。ぜひ皆様の力をお借りしながら、本と人、人と人にとって素敵な出会いがある、そんな図書館にしていきたいと思っています。

自発的な皆様のボランティア活動への参加に心から感謝申し上げますとともに、共に働くスタッフとして連携し、協働することで、本館を今以上に魅力ある図書館にしていきたいです。皆様のお部屋にも、職場にもお邪魔させていただくこともあるかと思いますが、ぜひご意見をいただきながら改善、進化していければと思います。

南海トラフ地震時の茨城県の震度

静岡県防災・原子力学会議
原子力分科会委員 桜井 淳

はじめに

2011.3.11に発生した東北地方太平洋沖地震時の水戸市の震度は、六弱であった。私は経験したことのない恐怖感を覚えた。震源のモーメントマグニチュード(Mw)は、9.0であり、日本では、最大規模であった。

震度と地震加速度の関係
震度 1 5 gal.

震度 2 5-10 gal.
震度 3 10-30 gal.
震度 4 30-100 gal.
震度 5弱 100-160 gal.
震度 5強 160-270 gal.
震度 6弱 270-500 gal.
震度 6強 500-850 gal.
震度 7 850 gal.

再度、震度六弱の地震

普通、地震の継続時間は、数秒から十数秒であるが、3.11地震では、異常に長く、90秒も継続した。世界で発生した地震の中で、もっとも継続時間が長かったのは、1964.3.27に発生したアラスカ地震(Mw=9.2)の4-5分であった。

政府の地震研究推進委員会は、全国各地で発生する最大地震の発生確率を発表したが、茨城県の場合、震度六弱の発生確率が、今後、40年間に、90%であった。私は、もう一度、震度六弱を経験できそうである。二回目は、恐怖感もなく、慌てることもなく、冷静に対応できるだろう。

南海トラフ地震の発生確率と影響

3.11地震後、政府の防災会議や地震研究推進委員会は、従来の「東南海地震」「南海地震」「東海地震」の名称ではなく、南海トラフ(トラフとは「へこみ」の意)で発生した地震をすべて、「南海トラフ地震」と名称変更した。最新の地震学手法により、発生する最大地震のMwが=9.0(津波評価において9.1)とした。

地震研究推進委員会に抛れば、南海トラ

フ地震の発生確率は、 $M_w=8.0-9.0$ において、今後、40年間に、90%である。私の推定では、 $M_w=8.0-8.6$ において、90%弱であり、 $M_w=8.6-9.0$ において、グーテンベルグーリヒター則に拠れば、一桁小さい約9%となる。世の中では、南海トラフ地震イコール $M_w=9.0$ かのように解釈されているが、そうではない。浜岡原発3&4の耐震対策では、保守的評価として、 $M_w=9.0$ とし、さらに、解析途中において、保守的条件をいくつも追加している。

もし、 $M_w=9.0$ の南海トラフ地震が発生すれば、茨城県では、震度五弱となり、驚くほどではない。首都直下型地震時(M_w 約7)でも、同様、震度五弱となる。

結びに代えて

地震のような自然現象の不確実性は、大きく、確実な予測は、不可能です。

曹洞宗雲水による国内外巡礼

宗教研究者(曹洞宗雲水)

桜井 淳

はじめに

雲水とは、僧侶の謙遜語であり、語源は、「雲が永遠に流れるように、水が高いところから低いところへ永遠に流れるように、永遠に修行する」ことに起因する。

作務衣は、雲水の作業着でもあり、正装でもあり、分かりやすく言えば、雲水の制服のような位置づけである。

曹洞宗の数珠の特徴

雲水が読経の際に持参する数珠の材質と色は、宗派ごとに異なり、曹洞宗の場合、色は、心落ち着くきれいな水色である。

数珠は、出家後の成就式(宗派によっては得度式)の際に授かり、曹洞宗雲水は、すべて、同じ数珠を授かっている。数珠の玉の数は、仏の数の108個であり、仏の分類の仕方に則り、分かりやすく、18個ごとに、透明の玉で6区に仕切られている。

東北地方太平洋沖地震の影響

2011.3.11(金曜日、14:46)に発生したモーメントマグニチュード9.0の世界でも有数であるばかりか日本史上初の規模の東北地方太平洋沖地震では、地震と津波により、主に、津波により、歴史的被害が生じ、15899人の人命が失われ、いまでも、2526人の行方不明者が存在する。

地震の際、岩手県の一部の内陸部では、震度七(850 gal.以上)、福島県の通称「海岸通り」附近では、震度六強(500-850 gal.)、茨城県の中央部に位置する水戸市では、震度六弱(270-500 gal.)を観測した。それに拠り、一ヵ月弱、常磐線は、土浦以北で運休となり、東北本線と東北新幹線も運休、常磐自動車道も、閉鎖され、茨城県だけでも、多くの人達が大きな影響を受けた。

私は、水戸市自宅での体験のみならず、何年か後、福島第一原子力発電所と福島第二原子力発電所を訪問し、各所長への聞き取り調査を実施した。特に、福島第二原子

力発電所の増田尚宏所長の津波被災後の指揮命令などの冷徹な危機管理の具体策に震え上がった。

津波被災者の魂の救済のための巡礼

私は、地震直後、仕事の他、自身が何をなすべきなのか、頭では明確に分かっていたものの、移動手段などの社会的制限に起因し、身動きができなかったものの、それらの制限が比較的緩和された地震の約一ヵ月後、津波被災地のすべての被災者の魂の救済のため、東北地方太平洋沿岸地域(仙台、仙台空港、名取、多賀城、東松島、石巻、女川、気仙沼、陸前高田、大船渡、釜石、宮古など)を中心とした巡礼に出かけた。徒歩約 150 km のきつすぎる道程。

巡礼とは、他者の魂の救済のみならず、自身の魂の救済でもある。地震後、すでに、一ヵ月も経過していたため、道路や畑など、いたるところに横たわっていた多く



名取住宅街(津波により住宅が押し流されて基礎コンクリートしか残っていない)

の遺体は、自衛隊により、葬られ、大部分の道路は、歩けるようになっていたものの、畑などのいたるところに、津波で流された多くの漁船や乗用車が、打ち上げられていた。地震や津波で破壊された家屋や商業施設などの写真は、記録としての価値

は、あるものの、絶望的なほどむごたらしく、不快に感じるため、第三者には、見せたくない光景である。現地の光景や異臭など記したくもない。

これまでの巡礼と記録

私の巡礼は、出家直後の 63 歳から本格的に始まり、京都や奈良の寺院を初め、シンガポール・タイ・香港・ドバイの市街地震のみならず、国内・スイス・フランス・ネパールの市街地寺院や山岳寺院などにまで及ぶ。

出家後の巡礼にかかわる写真は、保存してあるものの、30 歳台後半から始まった出家前の米国・欧州各国(フランス・デンマーク・スペイン・イギリス・ドイツなど)の教会やカテドラルなどの写真は、当時、特に、高い関心があったわけではなかったため、撮影しておらず、いま思えば、



スイスのインターラーケン・オスト駅近くのアーレ川で巡礼(手にしているのは曹洞宗の数珠)



スイスのツェルマツトにあるカトリック教会



フランスのシャモニー・モンブランにあるサン・ミッシェル教会

貴重な機会を生かせなかった(バルセロナのサグラダ・ファミリアやサンフランシスコの聖ピータ&ポール教会の写真など、ごく一部の写真は、残っている)。日本の仏教文化(建築や仏像などの技術)や欧州各国のキリスト教文化(カテドラルやステンドグラスなどの技術)は、素晴らしい。

編集後記

今の世界の社会状況を考えてみます。

歴史をマクロに考察すれば、人類誕生以来、この地上において、争い、もっと大きく言えば、戦いや戦争、もっときつい表現をすれば、「破壊」と「殺人」が途絶えたことは、一度もありませんでした。特に、

二十世紀は、学術的にも「戦争の世紀」と位置づけられています。

日本の一般的な組織においては、戦争について話し、主張すると、必ず。政治的というレッテルを張られ、周囲から疎んぜられ、それどころか、排除されるため、無難な処世術として、無関心を装い、沈黙を守ります。しかし、そのことが、状況を悪化させています。戦争の本質は、「破壊」と「殺人」であるため、いかなる戦争にも反対しなければなりません。

ロシア軍は、2022.2.24、一方的に、ウクライナに侵攻し、「ウクライナ戦争」を引き起こしました。原因は、ウクライナの政治的経済的軍事的なロシア離れが進み、ソ連邦崩壊後、従来 of 連邦共和国が、次々とロシア離れしていることへの危機感によるものです。

軍事同盟である北大西洋条約機構(North Atlantic Treaty Organization ; NATO)への加盟国は、欧州を中心に、30カ国にも及び、最近では、スウェーデンとフィンランド、さらに、ウクライナなど、計5カ国が加盟に名乗り出ています。ロシアは、ソ連邦崩壊後、政治的経済的軍事的に、完全敗北し、これ以上、後退できない状況にありました。

戦争にもルールがあり、軍人や軍事施設への攻撃のみであり、軍事と関係ない人達や施設への攻撃は、禁止されていますが、ロシア軍の攻撃により、ウクライナの主要都市は、破壊され、都市消滅どころか、大量殺戮(genocide)が生じており、ウクライナ側の死亡者数は、わずか二ヵ月間で、軍人が数千人、一般人が三万人、合計で四万人を超えており(2022.4.22 現在)、戦争が

長期化すれば、最近の湾岸戦争やイラク戦争やアフガニスタン戦争のように、十数万人どころか数十万人にも達します。

プーチン大統領は、戦術兵器としての核兵器の使用まで示唆していますが、使用すれば、国際政治上、実質的に、ロシア国家の消滅を意味します。ですから、いかなる国も、核兵器は、使用できません。

最近の戦争の特徴は、三つ挙げられ、ひとつは、世界に向けた情報戦であること、つぎは、戦争現場の映像が、可視化され、リアルタイムで世界に放映されること、もうひとつは、湾岸戦争で大量使用された A I 付きミサイルによる遠隔地からのピンポイント攻撃です。ロシア軍の兵器は、湾岸戦争における米国の最新鋭兵器の大量使用ではなく、旧式戦車による砲撃による施設破壊と言う時代遅れの攻撃法です。

戦場の不条理で残酷な光景をリアルに描いた優れた映画は、いくつかありますが、私が最も印象に残る作品は、米映画「プラトーン(小部隊の意)」(主演チャーリー・シーン)と「ワンス・アンド・フォーエバー」(主演メル・ギブソン)であり、戦場における局限下の人間の心理と思考と戦いと敵味方双方の虚しさが描かれています。

桜井 淳